

幼稚園の「遊び」から小学校の「学び」への
円滑な接続に関する一考察
～小1プロブレムに関する保育者側の認識と保育現場の対策～

有嶋 誠

A Study on Smooth Connection from Kindergarten's "Play" to
Elementary School's "Learning"
～Childcare side's perception on small 1 problem and
countermeasures at nursery school ～

Makoto ARISHIMA

要旨：近年、小学校入学後に学校生活に不適応を起こす児童の問題を「小1プロブレム」と呼び、全国的な広がりを見せている。「小1プロブレム」とは「小学校に入学したばかりの1年生がなかなか集団行動になじめない、授業中45分間座ってられない、先生の話が聞けないなど学校生活になかなか適応できない状態が数か月続くこと」を示している。(東京都教育委員会2004)⁽¹⁾ 筆者が長年勤務してきたM県内においても小学校1年生の114学級中60学級で、そのような状況が見られたと校長が答えている。

このような中、平成29年3月31日に告示された保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、そして小学校学習指導要領においては、幼児期の教育と小学校教育との「円滑な接続」の重要性を記載している。

本調査では、「小1プロブレム」に対するM県内の保育現場における保育者の認識と小1プロブレム対策についての質問紙調査を通して、幼児期の「遊び」から小学校の「学び」への「円滑な接続」の在り方を提言することを目的としている。

キーワード：小1プロブレム 円滑な接続 アプローチカリキュラム スタートカリキュラム

1 はじめに

平成29年3月に改定された「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び「小学校学習指導要領」においては、これまで以上に保育所、幼稚園、認定こども園等の就学前の保育・教育施設と小学校教育との連携強化や連続性と一貫性をもった幼児期の教育と小学校教育との「円滑な接続」の重要性が示されている。

昨年、筆者が行った「小1プロブレム」に関する校長を対象にした質問紙調査(平成28年11月21日～12月9日M県内の小学校46校の校長へ郵送方式による質問紙調査を実施し40校より回答を得る)によると、

- ① 校長の勤務校における小1プロブレムの重要度(40校中)
- ア きわめて重要・・・14校(35%)
 - イ かなり重要・・・17校(43%)
 - ウ やや重要・・・9校(22%)
 - エ 重要ではない・・・0校(0%)

- ② 1年生学級担任の小1プロブレムの重要度（40校中）
 - ア きわめて重要・・・・・・・・・・12校（30%）
 - イ かなり重要・・・・・・・・・・18校（45%）
 - ウ やや重要・・・・・・・・・・9校（23%）
 - エ 重要ではない・・・・・・・・・・1校（2%）
- ③ 勤務校における小1プロブレムの発生学校（40校中）
 - ア 小1プロブレムの事例があった・・・・・・・・18校（45%）
 - イ 小1プロブレムの事例はない・・・・・・・・18校（45%）
 - ウ どちらとも言えない・・・・・・・・4校（10%）
- ③ 総学級数に占める小1プロブレムの発生学級数
調査した総学級数 ・・・・・・・・・・：114学級
発生したと思われる学級数：60学級（53%）

という結果を得た。

本調査においては、M県内における小1プロブレムに対する学校経営上の重要度やその発生状況及び学校現場における具体的な対策等を明らかにすることができた。しかし、保育園や幼稚園と小学校との「円滑な接続」の重要性が示されている中で、小学校生活スタート時の学校現場において小1プロブレムの解消が小学校における学校経営上の喫緊の課題となっている。

また、改定された「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び「小学校学習指導要領」においても保幼小の連携が一層強調されており、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が共通して示されている。保育園や幼稚園における「遊び」を中心とした保育や教育から小学校の「学び」を中心とした教育へどのように円滑に接続していくのか重要な課題である。

昨年度に筆者が行った調査(2016)では、小1プロブレムに関する小学校側の認識や対策等の現状と小学校と近隣の保育園と幼稚園の連携状況を明らかにすることができた。しかし、保育園や幼稚園と小学校における情報交換や園児と児童による交流などの連携は多くの小学校で進んではいるものの小1プロブレムの解消に向けた教育方法等の連携はあまり見られなかった。

本論文では、昨年度の学校現場を対象にした調査結果をもとにしながら保育園や幼稚園における小学校入学前の園児（年長児：5歳児）に対する指導のあり方等について、県内の保育者に質問紙調査を実施し、保育者の小1プロブレムに関する認識と保育現場におけるその対策について明らかにし、保育園や幼稚園と小学校との「円滑な接続」に関する提言を行うことを目的としている。

2 幼児期の教育と小学校教育の「円滑な接続」の重要性

保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び小学校学習指導要領には、これまでも幼児期の教育と小学校教育の「連携・接続」に関する記述は多くみられたが、今回の改訂では「円滑な接続」という文言をもとにその接続の重要性を書いている。

以下はその改定の部分であり、下線部は主な改定部分である。

① 保育所保育指針 <平成29年3月31日告示>⁽²⁾

第2章 保育の内容 4 保育の実施に関して留意すべき事項

(2) 小学校との連携

- ア 保育所においては、保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基盤を培うようにすること。
- イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなどの連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。
- ② 幼稚園教育要領 <平成29年3月31日告示> ⁽³⁾
 第1章 総則 第3 教育課程の役割と編成等
 (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。
- ③ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 <平成29年3月31日告示> ⁽⁴⁾
 第2章 保育の内容 4 保育の実施に関して留意すべき事項
 (5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項
 イ 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼保連携型認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。
- ④ 小学校学習指導要領 <平成29年3月31日告示> ⁽⁵⁾
 第1章 総則 第2 教育課程の役割と編成等
 4 学校段階等間の接続 (改定において新設された)
 教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。
 (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。
また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の連携を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。
- 第2章 各教科 第5節 生活 第3 指導計画の作成と内容の取扱い
 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 (4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園

教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的に学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした科学的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

3 調査の方法

県内の保育者（保育園・幼稚園。認定こども園の保育者）への調査に当たっては、本学で夏季休業中に実施した「平成 29 年度宮崎学園短期大学教員免許状更新講習」を受講した 80 名の保育者に対して調査を行った。筆者は、昨年度から講師として「幼児教育の最新動向～学校における危機管理上の課題～」の講座を担当している。その講座の中で学校における危機管理の一つとして小 1 プロブレムの現状と課題について話した後に、保育者の認識と対策について協議をさせた。その協議の視点として以下のような質問項目を準備し、保育者全員に記入していただいた後に協議を行った。今回は、その質問項目をもとに保育者の認識と保育現場における対策等をまとめることとする。

- ① 調査対象者 平成 29 年度宮崎学園短期大学教員免許状更新講習受講者 80 名
- ② 調査期日 平成 29 年 8 月 23 日（水曜日）
- ③ 質問紙の構成

フェイスシート（勤務先 性別 年齢 通算勤務年数）

質問Ⅰ 「小 1 プロブレム」という言葉を聞いたことがありますか。

質問Ⅱ 「アプローチカリキュラム」という言葉を聞いたことがありますか。

質問Ⅲ 「スタートカリキュラム」という言葉を聞いたことがありますか。

質問Ⅳ 「小 1 プロブレム」の原因をどう思いますか。

質問Ⅴ 貴園における近隣小学校との連携の状況を書いてください。

質問Ⅵ 小 1 プロブレムの予防として貴園又は自身が工夫していることを書いてください。

- ④ 質問の内容等

フェイスシートにて、参加した保育者の性別、勤務先、勤務年数、年齢を伺った。

ア 質問Ⅰ 「小 1 プロブレム」という言葉を聞いたことがありますか。

講習で学んだ小 1 プロブレムに関し、これまでの保育者としての経験上でその言葉を聞いたことがあるか質問した。小 1 プロブレムに関する知識や認識の度合いが現場で働く保育者にどの程度に認識されているのかを質問した。

イ 質問Ⅱ 「アプローチカリキュラム」という言葉を聞いたことがありますか。

就学前の幼児がスムーズに小学校生活や学習に適応できるようにするとともに、幼児期の学びを小学校教育につなげるために作成する 5 歳児後半のカリキュラムについての知識や認識度を質問した。

ウ 質問Ⅲ 「スタートカリキュラム」という言葉を聞いたことがありますか。

入学当初に幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場면을意図的につくるための小学校入学時のカリキュラムとしての「スタートカリキュラム」につい

ての知識や認識度を質問した。

エ 質問Ⅳ 「小1プロブレム」の原因をどう思いますか。

講習で学んだ小1プロブレムの状況（東京都教育委員会の定義やM県内の状況）などをもとに、小1プロブレムの原因を年長児の保育や教育に当たった経験のある保育者がどのように考えているかについて質問した。

オ 質問Ⅴ 貴園における近隣小学校との連携の状況を書いてください。

保育園・幼稚園・認定こども園における近隣の小学校との連携の状況について質問した。教職員同士や子供同士の連携やその他の連携の状況等を把握することにより、小1プロブレム対策の糸口を知ることができると考えた。

カ 質問Ⅵ 小1プロブレムの予防として貴園又は自身が工夫していることを書いてください。

小1プロブレムの「予防」という文言を使い、保育現場で年長児に対して行っていると思われる予防策について質問した。

4 調査の結果

① 調査対象者の状況（ファイスシートから）

ア 調査対象者 80 名の勤務先

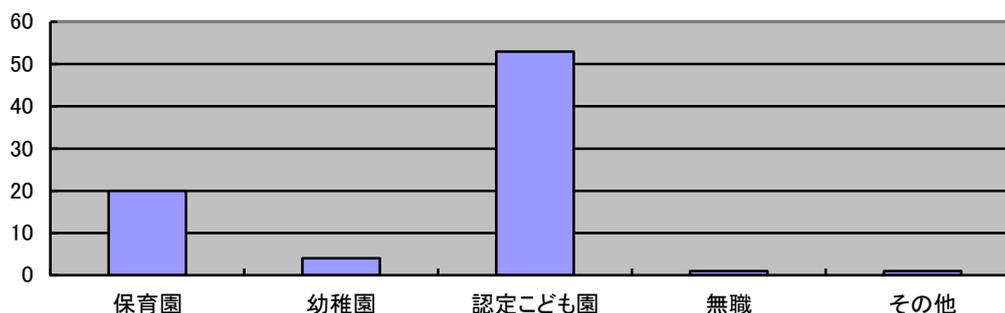


図1 調査対象者の勤務先状況（人）

保育園勤務 20名 幼稚園勤務 4名 認定こども園勤務 53名
無職 1名 その他（幼稚園の事務職員）1名

イ 性別 男性 0名 女性 80名

ウ 年齢（年代別）

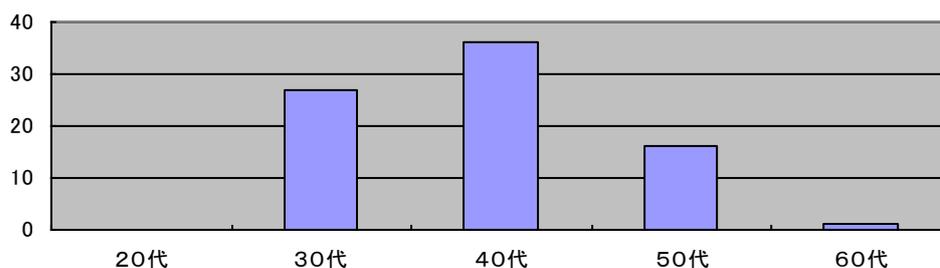


図2 調査対象者の年齢構成

20代：0名 30代：27名 40代：36名
 50代：16名 60代：1名

エ 勤務年数

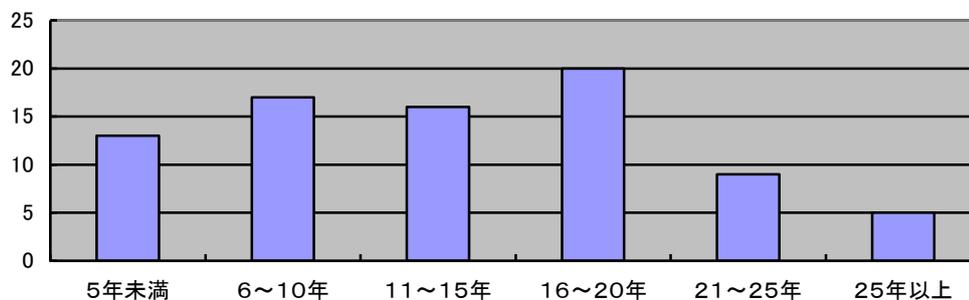


図3 調査対象者の勤務年数

5年未満：13名 6～10年：17名 11～15：16名
 16～20年：20名 21～25年：9名 25年以上：5名

② 質問Ⅰ 「小1プロブレム」という言葉を聞いたことがありますか。

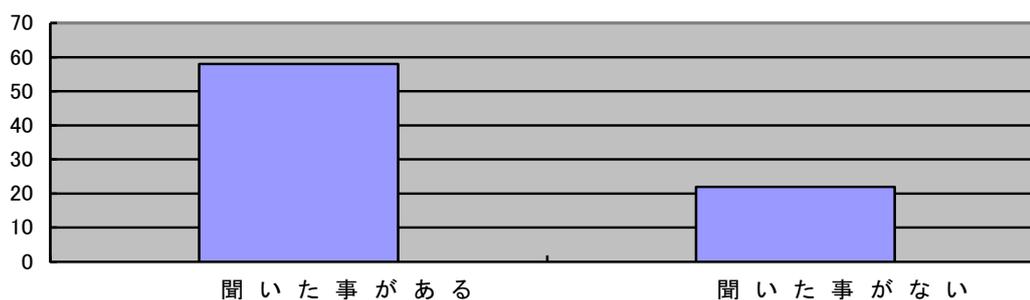


図4 小1プロブレムという言葉の認識度

※小1プロブレムという言葉
 聞いた事がある：58名 聞いた事がない：22名

③ 質問Ⅱ 「アプローチカリキュラム」という言葉を聞いたことがありますか。

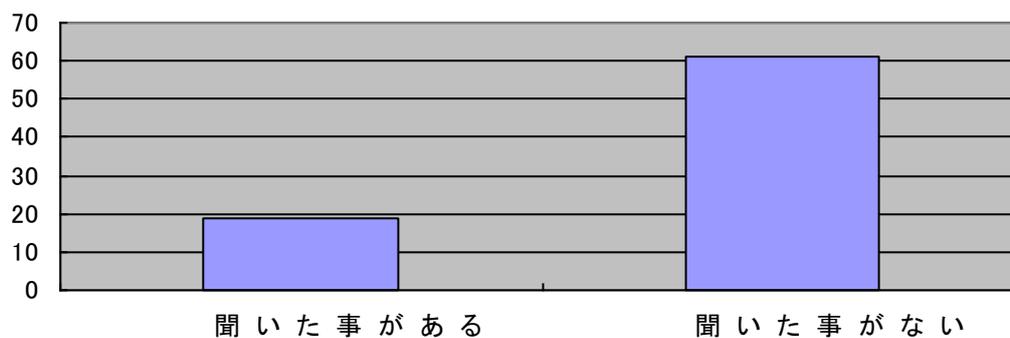


図5 アプローチカリキュラムという言葉の認識度

※アプローチカリキュラムという言葉

聞いた事がある：19名 聞いた事がない：61名

④ ウ 質問Ⅲ 「スタートカリキュラム」という言葉を聞いたことがありますか。

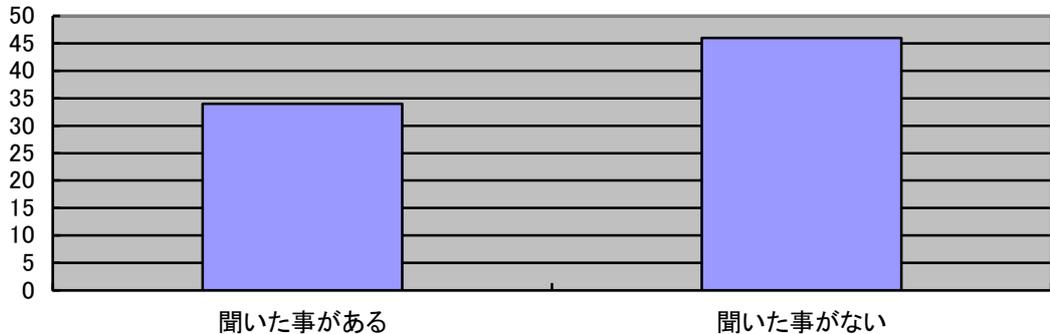


図6 スタートカリキュラムという言葉の認識度

※スタートカリキュラムという言葉

聞いた事がある：34名 聞いたところがない：46名

⑤ 質問Ⅳ 「小1プロブレム」の原因をどう思いますか。

結果としては、ア「子ども自身に原因があるとする意見」、イ「保護者に原因があるとする意見」、ウ「小学校側に原因があるとする意見」、エ「幼稚園側に原因があるとする意見」、オ「その他に原因があるとする意見」に分かれた。以下はそれぞれの項目ごとに意見を記述した。※<>内は同じような意見をもつ保育者の人数である。

ア 「子ども自身に原因があるとする意見」 ※文末に人数表示のないものは1名の意見

- ・特別な支援を必要とする子どもが増えている。<13名>
- ・友達関係をうまくつけれない。<11名>
- ・集中力がない。<9名>
- ・人の話を落ち着いて聞けない。<6名>
- ・我慢することの経験、ぶつかり合うことの経験などの経験が不足している。<6名>
- ・集団行動ができない。<4名>
- ・落ち着きのない子どもや感情をコントロールできない子どもが増えている。<3名>
- ・他者とのコミュニケーションの不足を感じる。<3名>
- ・子ども自身が小学校という新しい環境になじめない。<2名>
- ・きまりや約束事を守れない。<2名>
- ・先生の話聞くことのできない子どもが増えており、聞くことより思ったことを自己主張する子どもが多い。<2名>
- ・気持ちのコントロールができない子どもが多い。<2名>
- ・子供の生活習慣が乱れている。<2名>
- ・核家族が増え、道徳心を教わる場が少なくなっている。<2名>
- ・幼児期の集団行動がしっかりと身につけていない。<2名>
- ・我慢する気持ちが育っていない。<2名>

- ・小学校の意味や小学校が何をするとところか理解できていない。
- ・少子化のせいかわがままな子どもや甘えて育てている子どもが増えている。
- ・友達とかかわる遊びではなくゲームなどをしている子どもが多い。
- ・自分の気持ちを抑えられずにやりたいことをやる子どもが増えている。
- ・基本的な生活習慣が欠如している子どもが多い。
- ・幼稚園では一番上として扱われるが、小学校に入ると一番下として扱われる。
- ・子どもがテレビやスマートフォンに依存している。
- ・長い時間椅子に座っているという経験が少ない。
- ・小学校という新しい環境に抵抗を感じる子どもがいる。
- ・一つのことにじっくりと取り組むような遊びの経験をしていない。
- ・基本的な生活習慣の乱れが見られる。早寝・早起き・朝ごはん・朝の排便など
- ・少子化で兄弟等との関わりが少なく、我慢する経験もなく思い通りの生活をしている。
- ・ゲームやテレビの時間が増加しており、我慢することが欠如している。
- ・幼稚園や保育園の延長で、1年生になった自覚に乏しい。
- ・保護者との愛着関係が身につけていない。
- ・落ち着きのない子どもが多く、小学校へ入学しても直らない。
- ・落ち着いて座っているなどの経験が少ない。
- ・特別な支援を必要とする子どもが増え、椅子に座ることのできない子どもが多くなり、他の子どももつられてしまう。
- ・物や情報があふれ、一つのことに集中できない。

イ 「保護者に原因があるとする意見」 ※文末に人数表示のないものは1名の意見

- ・家庭内での日常的なしつけが不足している。〈32名〉
- ・子どもと接する時間が少なくなっている。〈10名〉
- ・核家族化や親の多忙から子どもとのコミュニケーションが取れていない。〈7名〉
- ・家庭内のしつけの甘さや生活習慣の徹底ができていない。〈6名〉
- ・学校に任せっぱなし。生活習慣が身につけていない。〈6名〉
- ・保護者として未熟である。〈5名〉
- ・注意しない。しからない。無関心。〈5名〉
- ・子どもを静かにさせるためにゲームやテレビでおとなしくさせている。〈4名〉
- ・自分の子どもを怒ることができない。〈4名〉
- ・子どものわがままを聞くばかりでルールやマナーを家庭で教えていない。〈3名〉
- ・子どもに基本的な生活習慣のリズムをつくっていない。(早寝・早起き) 〈3名〉
- ・小学校がどのような所か、どんなふうにご過ごすのかきちんと伝えていない。〈3名〉
- ・親としての意識に乏しい。幼稚園や学校に任せっぱなし。〈2名〉
- ・家庭で静かに座って食事を待つなど、ある一定お〇時間をとれない。〈2名〉
- ・親が自分の時間を尊重しすぎており、子どもへ関わる時間が不足している。〈2名〉
- ・仕事が忙しく幼児期に十分に関わっていない。
- ・子どもを甘やかしてしつけや注意すべきことを普段からできない。
- ・子どもに対して親が主導権を握っていない。子どもの言うまが多い。
- ・子どもに我慢することを教えていない。
- ・親が子どものままに成長している。

ウ 「小学校側に原因があるとする意見」 ※文末に人数表示のないものは1名の意見

- ・幼稚園や保育園と連携して、子どもの情報収集に力を入れていない。〈12名〉
- ・子どもの特性を十分に理解していない。〈7名〉
- ・1学級の人数の多さ。担任一人で見ることが難しい。〈6名〉
- ・幼稚園との連携が十分でない。〈6名〉
- ・小学校教師の指導力不足がある。〈6名〉
- ・授業が面白くなく子どもをひきつけられない。〈5名〉
- ・幼稚園との情報交換や幼稚園教育の内容理解が不足している。〈4名〉
- ・幼稚園での経験を活かしたスタートカリキュラムの内容が充実していない。〈4名〉
- ・幼稚園や保育所への小学校からのアプローチが少ない。〈2名〉
- ・小学校がどのような所か子どもに知ってもらう機会が少ない。〈2名〉
- ・幼稚園や保育園に関心が少ない。〈2名〉
- ・小学校は厳しすぎる。または甘すぎる。〈2名〉
- ・小学校教師の多忙や多様化している。〈2名〉
- ・1年生がゆとりを持って徐々に集団行動に慣れるような工夫が必要である。〈2名〉
- ・子どもに興味関心を持たせるような言葉かけや環境づくりが不足している。〈2名〉
- ・幼稚園との会議の回数や小学校行事への参加が各学校で違う。
- ・良いことと悪いことなどのマナーやルールをしっかりと教えてもらいたい。
- ・困り感のある子どもについての情報が不足している。
- ・年長児から1年生になるとかなり幼く扱われている。
- ・特別な支援を必要とする子どもへの指導員が不足している。
- ・幼稚園との生活リズムの違いを理解しての授業の工夫が必要である。
- ・モンスターペアレントが増えて子どもをしかることができない。
- ・幼稚園から小学校教育へ慣れる時間がない。

エ 「幼稚園側に原因があるとする意見」 ※文末に人数表示のないものは1名の意見

- ・小学校との連携・情報共有が十分でない。〈24名〉
- ・椅子に座って静かに過ごせる時間や話をしっかり聞く時間を設定していない。〈9名〉
- ・小学校入学を意識しての保育が不足している。〈7名〉
- ・小学校への入学を踏まえた保育を行う必要性がある。〈6名〉
- ・アプローチカリキュラムの工夫が必要である。〈5名〉
- ・小学校の先生との交流が十分でない。〈4名〉
- ・年長児の後半に小学校の授業へ向けての準備がなされていない。〈3名〉
- ・小学校でどのようなことが大切かについて先生が対応できていない。〈3名〉
- ・保育者の資質や経験が不足している。〈3名〉
- ・保育で心の教育（静かに話を聞く・話しをする人の目を見る）が不足している。〈3名〉
- ・特別な支援を必要としている子どもへの対応が不足している。〈3名〉
- ・小学校教育を見る機会がない。〈2名〉
- ・年齢にあった興味関心のある活動が十分にできていない。
- ・小学校入学前に気持ちを高めルールの大切さを伝えたりすることが不足している。
- ・積極的に情報を収集し開示するような努力が不足している。
- ・小学校生活に必要な基本的なことの指導が不足している。

オ 「その他の原因があるとする意見」 ※文末に人数表示のないものは1名の意見

- ・幼稚園・保護者・地域の方々との関わりが少なくなった。〈5名〉
- ・特別な支援を必要とする子どもが増えた。〈3名〉
- ・子どもを取り巻く生活環境の変化がある。〈3名〉
- ・縦と横のつながりが希薄になっている。〈2名〉
- ・スタート・アプローチカリキュラムの充実を図る必要がある。〈2名〉
- ・幼稚園と小学校で連携が取れていない。〈2名〉
- ・核家族化で複数の大人が子どもに関わりをもっていない。
- ・幼稚園と保育園の各園での教育差が見られる。

⑥ 質問Ⅵ 小1プロブレム予防として貴園又は自身が工夫していることを書いてください。

小1プロブレムの「予防」という文言を使い、保育現場で年長児に対して行っているとされる予防策について質問した。以下は自由記述で書いた意見である。

<園で行っている予防策>

- ・座って話を聞いたり姿勢を正して活動する時間を設定している。〈8名〉
- ・午後は眠くならないように、午睡の時間を中止して活動をさせている。〈3名〉
- ・モンテッソーリ理論をもとに日常から自分でできることを多くさせている。
- ・子どもが集中できるような活動を取り入れている。(読み聞かせや製作など)
- ・小学校の教師へ気になる子どもの状況を話す。
- ・年長児は一年間を通して数や文字にふれる活動を行い、11月からは午睡をやめて学習の時間に当てている。
- ・小学校に1日見学をさせて小学校がどんなところか体験させている。
- ・子どもの興味や関心のあることを職員間で話し合い計画を立てている。
- ・入学前(年明け)に小学校の授業時間の45分を意識して1日の流れを考えている。
- ・しっかりと話を聞く。勝手にトイレに行かない。椅子にきちんと座る。指導を繰り返す。
- ・年長児の後半で活動内容や時間を小学校に近づけている。
- ・1月から午睡の時間を中止し学校ごっこ(小学校のように机や椅子に座り、プリント学習や絵本を読んだりして過ごす)を行う。
- ・1月から「学校ごっこ」45分の勉強が始まる前にトイレをすませる。
- ・朝の時間に立腰の姿勢で一斉にしっかりと椅子に座る時間を設定している。
- ・年長児の担任と小学校の先生とでの話合いや情報交換会を実施している。
- ・小学校の先生を定期的に招いて幼児の様子を見てもらっている。その時に意見交換をしてより良い方向性を見つけるようにしている。
- ・気になる子どもの情報を園で共有し、小学校との連携できるような個別計画を立てている。

<自身で行っている予防策>

- ・0歳児から静かに待つことや1歳児もいろいろなお仕事を通してやる気や集中力を持たせるようにしている。
- ・話は座って聞く、目を見て話すなど短時間でも集中できるように時間をつくっている。
- ・先生の話聞けるような雰囲気づくりを行っている。
- ・近くの小学校の写真を見せたり、見学に行ったりしている。
- ・挨拶や話をするときは「顔を見て」「目を見て」と声かけをしている。

- ・子どもの話をしっかり聞いて、信頼関係を築いている。
- ・日常の保育の中で「話を聞く」ことを意識して指導している。
- ・ワークの時間をつくり、集中できる時間をつくっている。
- ・全体が揃うまで始めず、一つ一つの行動にけじめをつけている。
- ・活動の区切り（休み時間）で水分補給やトイレを済ませるように指導している。
- ・集団での活動は時間設定をし、少しずつ伸ばして座ってできる活動を取り入れている。
- ・年長児は後半に、集団での行動、一定時間座る機会をつくることに心がけている。
- ・動と静の時間をはっきりさせている。
- ・先生の話聞く時間や長く座る時間を設定している。
- ・集団遊びを多く取り入れて集団行動に慣れさせている。
- ・トイレは活動と活動の空いた時間に行くよう指導している。
- ・静かに過ごす時間として「音楽を聴く」「読み聞かせ」「習字」などに取り組んでいる。
- ・小学校入学前に椅子に長く座る練習をたくさんさせている。
- ・小学校がどんなところか子どもに教えている。
- ・話を聞くということを意識させるために絵本などを読んで聞く態度を育てている。
- ・小学校での生活についてクラスで話し合っている。
- ・子どもと一緒に日々約束事や決まりを決めたり確認しあったりしている。
- ・静かになるまで話を始めないように工夫している。
- ・入学前は座っての活動を多く取り入れ授業中に離籍しないですむように働きかけている。

5 調査の結果に関する考察

① 質問Ⅰから質問Ⅲに関する考察

「小1プロブレム」という言葉については、聞いたことがある保育者は80名中58名（約73%）であり、聞いたことがない保育者は80名中22名（約27%）であった。多くの保育者が小1プロブレムという言葉を知ったことが分かった。

次に、小学校入学に向けて年長児（5歳児）を対象とした「アプローチカリキュラム」という言葉については、聞いたことがある保育者は80名中19名（約24%）で、聞いたことがない保育者は80名中61名（約76%）であり、多くの保育者がアプローチカリキュラムという言葉を知ったことがなかった。

また、「スタートカリキュラム」という言葉については、聞いたことがある保育者は80名中34名（約43%）で、聞いたことがない保育者は80名中46名（約57%）であった。ほぼ半数の保育者が聞いたことがあるということがわかった。

② 質問Ⅳに関する考察

現場の保育者に小1プロブレムの原因について質問した結果でそれぞれ一番意見が多かったものは、

子どもの原因 : 「特別な支援を必要とする子どもが増えている」 <13名>

保護者の原因 : 「家庭内での日常的なしつけが不足している」 <32名>

小学校側の原因 : 「幼稚園や保育園と連携して子どもの情報収集に力を入れていない」
<12名>

幼稚園側の原因 : 「小学校との連携・情報共有が十分でない」 <24名>

その他の原因：「幼稚園・保護者・地域の方々との関わりが少なくなった」＜5名＞であり、「特別な支援を必要とする児童の増加」「幼稚園と小学校の連携不足」「家庭でのしけ不足」「地域との関係の希薄化」などをあげている。

特に多かった意見は「小学校との連携や情報共有が十分でない。」であり、幼稚園が小学校と意見交換や合同の研究会などで入学予定の園児に関する情報を小学校にしっかりと伝えていないことを保育者は小1プロブレムの大きな原因と考えていることが分かった。

③ 質問Vに関する考察

年長児（小学校入学前の園児）に対して、園全体で行っている予防策としては「座って話を聞いたり姿勢を正して活動したりする時間を設定している」と答えた保育者が8名いる。また、「小学校生活の午後の時間を意識し、午睡の時間を中止し活動させている」と答えた保育者が4名いる。さらに、「小学校と同じように45分の時間を設定して活動させている」保育者もいる。保育者自身で行っている予防策としては、「話を座って聞かせる」「集団遊びを取り入れて集団行動に慣れさせる」「小学校について話をする」など、保育者自身が小学校教育や小学校の生活についての話を聞かせるなど、小1プロブレム等を意識して指導していることが分かった。

6 小1プロブレムに関する両者の考え方と接続期カリキュラムの提言

① 小学校と保育者の調査結果

昨年度の小学校に対する調査と今年度の保育者に対する調査の概要をまとめる。

＜表1 小学校側と保育者側の小1プロブレムに関する意見の概要＞

調査内容	小学校の考え（40校）	保育者の考え（80名）
小1プロブレム	学校経営にとって きわめて重要な問題 14校 かなり重要な問題 17校 やや重要な問題 9校	小1プロブレムという言葉 聞いたことがある 58名 聞いたことがない 22名
原因	家庭におけるしつけの欠如 34校 感情コントロール不可能 29校 特別な支援の必要な児童 28校 自己中心的な児童 18校 学級担任の指導力不足 11校 幼稚園教育との違い 8校	家庭におけるしつけの欠如 32名 幼稚園の小学校との連携不足 24名 小学校の幼稚園との連携不足 12名 子どもとのふれあい時間の不足 10名 小学校を前提とした指導の不足 9名 子どもの集中力のなさ 6名
予防策（対策）	授業内容の工夫と改善 授業方法の工夫と改善 生活指導の工夫と改善 教職員配置 研修会の実施 幼稚園・保育園との連携強化	小学校教育を意識した指導 集団遊びを通しての集団活動の準備 座って聞く先生を見るなどの指導 <u>小学校との連携強化</u>

調査結果の概要から分かるように、小学校は全ての校長が小1プロブレムに関して学校経営上重要であると意識している。また、多くの保育者も小1プロブレムに関心を持っている

ことが分かる。原因については小学校と保育者の考えはほぼ同じである。

予防策としては、小学校側は小1プロブレムが発生した場合の学校側の対応策を述べているが、保育者側は小1プロブレムを発生させないように、小学校教育に慣れさせるための準備を年長児に対して行っていることがわかる。

また、予防策として、小学校側も保育者側も同じように「連携」という言葉をキーワードに上げている。小学校と幼稚園や保育園との連携が小1プロブレムの予防として必要であるとお互いに認識している。昨年度の筆者による調査によると、小学校側の保育園や幼稚園との連携については、「運動会に年長児を招待：37校」「保護者の入学説明会の実施：37校」「保育園や幼稚園との情報交換会の実施：36校」を上げている小学校が全体の約9割に上っている。しかし、「小学校教員の幼稚園体験：2校」「幼稚園教諭の小学校体験：3校」「幼稚園と小学校の研修会実施：7校」などの結果を見ると、お互いの教育内容や保育内容等についての連携は多くはない状況にある。ほとんどの小学校の連携の中身としては幼児と小学生の交流会や幼児を小学校行事へ招待、入学する幼児の情報交換などの「交流」が主であり、幼稚園側と小学校側におけるお互いの接続期における教育内容等の話し合いや研修会などは行っていない。また、カリキュラムの在り方等についての協議も十分に行っていない。

②保幼小の接続期カリキュラムの必要性

保育園や幼稚園において「遊び」を通して総合的に学ぶ幼児期の教育から教科書等を活用して「学ぶ」小学校の教育へ円滑な接続をするためには、保育園と幼稚園及び認定こども園と小学校がお互いに連携しながら、接続期のカリキュラムを作成し実践することが求められている。

しかし、昨年度の小学校への調査と今年度の保育者への調査においては、円滑な接続のための方策として、園児と児童や教職員同士の「交流」が中心であり、接続期のカリキュラムを作成するまでには至っていない。

小1プロブレムの状況を改善し、「遊び」を中心とした教育から「学び」を中心とした教育へ円滑に接続するためには、これまでのような交流に加えて年長児から小学生に至る接続期のカリキュラムを工夫し改善することが求められている。

③接続期カリキュラムとは

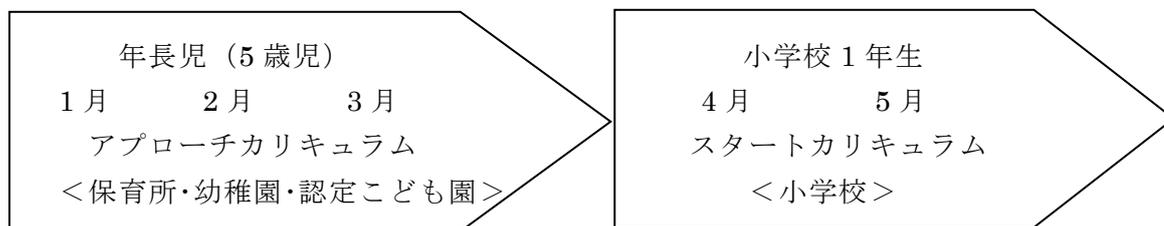
文部科学省では「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」を含めて「接続期カリキュラム」と呼んでいる。

アプローチカリキュラムとは、幼児期における遊びの中の学びが、小学校の学習や生活に、生きて働くことができるよう工夫された保育所、幼稚園年長児後半（5歳児9月～3月）のカリキュラムのこと。小学校のカリキュラムを先取りして行うものではなく、平成29年3月に改定された保育所保育指針等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の方向性に近づくことのできるカリキュラムのことである。

スタートカリキュラムとは、入学当初に幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織りまぜながら、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくるための小学校入学時のカリキュラムのことであり小学校学習指導要領解説生活編にその用語が明記されている。

④ 接続期カリキュラムの実施期間

宮崎市教育委員会学校教育課は作成した「宮崎市保幼小接続期カリキュラム作成の手引き【第1版】」⁽⁶⁾ 接続期カリキュラムの実施期間等を以下のように設定している。



幼稚園や保育園においては、小学校入学を迎える年長児（5歳児）に対する「アプローチカリキュラム」を1月から3月に実施することとしている。また、小学校においては、新入生に対する「スタートカリキュラム」を入学直後の4月から5月にかけて実施することとしている。

7 終わりに

昨年度は、M県内の小学校の校長を対象に小1プロブレムの状況について調査を行った。その結果としてM県内の多くの学校（学級）において、東京都教育委員会が定義した「小1プロブレム」の状況が発生していることがわかった。そのため、今年度は保育者に対して「小1プロブレム対策として保育者が園児に行っている対策等」について調査を行った。

その結果、多くの保育者が小1プロブレムへの関心を高めており、保育者自らが小学校入学を予定している年長児に対して小学校教育に向けた教育や保育を行っていることが分かった。

文部科学省は、改定された幼稚園教育要領などや小学校学習指導要領の総則や生活編において、幼児期の教育と小学校教育の「円滑な接続」の重要性を述べている。昨年度と今回の調査では「円滑な接続」に必要とされる「交流」をほとんどの小学校区において実施していることがわかったが接続期カリキュラムの実施はほとんど実施していないことが分かった。

保育園や幼稚園そして認定こども園の卒園前の年長児に対するアプローチカリキュラムと小学校における入学当初からスタートカリキュラムの確立とその実践が小1プロブレムを含めた小学1年生の入学直後の不適応状況を改善するものと期待している。

小学校区を中心としたアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの整備と実践こそが幼稚園等の「遊び」から小学校の「学び」への円滑な接続を図る大きな方策であると考えられる。

引用及び参考文献

- (1) 東京都教育委員会 「東京都教育ビジョン」 2004年
- (2) 厚生労働省 「保育所保育指針」 <平成29年告示> フレーベル館
- (3) 文部科学省 「幼稚園教育要領」 <平成29年告示> フレーベル館
- (4) 内閣府 文部科学省 厚生労働省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 <平成29年告示> フレーベル館
- (5) 文部科学省 「小学校学習指導要領生活編」 <平成29年告示>
- (6) 宮崎市福祉部子ども未来局保育幼稚園課 宮崎市教育委員会学校教育課
平成29年10月 「宮崎志保幼小接続期カリキュラム作成の手引き【第1版】」